

生駒市農業ビジョン推進懇話会 第2回会議録 (要点筆記)

- 1 開催日時 平成27年3月30日(金) 午前10時～午後12時
- 2 開催場所 生駒市セイセイビル 4階 401会議室
- 3 参加者 相川氏 有山氏 石丸氏 井上氏(副座長) 桂氏(座長) 上武氏 坂本氏 田中氏  
中世古氏 中村氏 平沼氏 藤尾氏 安田氏 (五十音順)

(事務局) 奥谷環境経済部長 中谷環境経済部次長 林経済振興課長  
植島経済振興課長補佐 長田農林係員

- 4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 なし

- 5 議題 (1)平成26年度生駒市農業ビジョンの進捗状況について  
(2)生駒市農業基本構想について  
(3)人・農地プランについて  
(4)今後の予定について

6 審議内容

- (1)平成26年度生駒市農業ビジョンの進捗状況について

座長 ご質問・ご意見やもっと力を入れてほしいところなど積極的に発言してほしい。

副座長 学校給食の黒大豆の出荷が0となっているが、これはなぜか。黒大豆の生産面積はあるのに、価格に問題があるのか。

事務局 1000円/kgくらいで、価格は良いものになっている。100kgを出すという量がきついのもかもしれない。

座長 生産者に出荷を促す取組を行ってほしい。

参加者 生駒の特産品である黒大豆が食育に出てこないのはさびしい。竹パウダーの取り組みはどうなったのか。住民力、団体の力不足を実感している。Eco-netも一度遊休農地解消の取り組みを始めたのなら続けてほしい。行政の指導をいただきながら、頑張っていくのが住民力である。また、農業ビジョンの集まりを強力なものにしたい。そのためには、色んな窓口に働きかける必要があると思う。

座長 貴重な意見で、会議の持ち方にも影響してくる。市役所で苦勞しているのは分かるが、協力できる組織になればと思う。また、この会も機動的に開ける会であれば良いと思う。

参加者 部会のメンバーが高齢化してきていて、継続することが難しくなっている。竹パウダーの取り組みはうまくいかなかったのか。

参加者 失敗したからやめたではなく、もう一步進めてほしいと思う。  
また、黒豆味噌を生駒の特産品にしたい。質の悪いものを使って商品化していくのが狙い目であり、細々ながら継続していくことが大切である。これからは、新しい人を巻き込んでいく必要があると思う。

参加者 黒大豆を個人個人で出すのが難しいのであれば、組織化はどうか。生産が多い高山地区では組織化をしているのか。

参加者 今は個人の出荷が主となっている。

参加者 粒が不揃いの黒大豆は処分していると聞いたが、実際はどうか。

- 参加者 処分したり、業者に引き取ってもらったりしている。組織化した方が販売しやすいと思う。
- 座長 Eco-net では、新しい会員が入ってくる取組をしているのか。
- 参加者 PR するなどの取組や、個人のつながりでの取組もある。HP や広報の情報はあがるが、知りたい情報を探そうという需要があつてこそになっている。関心がない人に、どうやって届けるかが重要であると思う。
- 座長 5つ目標を立てているが、どれに関することでも構わないので意見はないか。
- 参加者 以前、農業の斡旋について市役所の窓口に行ったが、申請用紙もなく、農業委員さんに伝わっているのか不安に感じた。
- 座長 農地を繋げる仕組みはどうなっているのか。
- 事務局 農地の斡旋を行っており、遊休農地の利用状況の意向調査を取りまとめ中である。その結果を踏まえて、マッチングをしていく計画をしているし、窓口での対応もきちんと残している。
- 座長 農業委員会の制度が変わるようなことも聞いている。農業委員会は市長の選任になり、農地利用最適化推進委員をおくような話が出ている。市役所は、新規就農者の人とは常に繋がっていく必要がある。
- 参加者 付加価値が高いものを作らないと、農業を生業としてやっていくことは難しいと思う。遊休農地が増えていくのは、経済的に成り立たないからである。個人の努力だけでは、その人に何かあつたら終わってしまうため、ボランティア的な発想が必要となってくると思う。
- 座長 生業としてやっていくには、出荷先の開拓や市の手助けがほしいという話は聞いているが、ビジョンが走り出した今、求める支援はどんなことがあるか。
- 参加者 生駒の土地柄として、農業よりは外に出て仕事をする人が多いため、遊休農地が増えてきたと思うが、今就農して手応えを感じている。また生駒は区画整理がされておらず、水の便が悪く、生産には向いていないが、販売の方でメリットがある。農地を流動化してもっと必要な人が面積を増やせるようになれば、新規就農も成功すると思う。
- 座長 新しい新規就農者についての情報を教えてほしい。
- 事務局 資料に基づき説明
- 座長 新規就農者が上手くやっていけるように、市がサポートしてほしい。また、新規就農者の先輩にも目配りしてほしい。さらに、地域ぐるみで盛り上げていくことが生業として成り立つためには必要であると思う。そのためには組織化という手が一つと、多くの団体があるため、困った時には手が借りられるような仕組みが必要であると感じた。
- 参加者 農業で生計を立てている人は極めて少なく、兼業しないと食べていけない。インフラを整備したり、引っ張っていく人がいないと生業として成り立たない。また、遊休農地がいのししの放牧地になっているし、地域に若い世代がいなく高齢化しているのを実感している。北地区で問題なのは、北の最大の地主との交流はどうなっているのかということである。
- 事務局 定期的に連絡をして、交流を図っているようである。
- 参加者 新規就農者を育てるためには、県に相談に行ったり、売り先確保に動く専任者をつけたりする必要があるのではないか。
- 座長 市役所として頑張つてサポートしてほしい。地域としての問題解決なども必要である。
- 参加者 農業が生業としてやっていけるかということであるが、実際売上げを出すことができている

る。また、決められた期間に決められた量を出すと評価してもらえる。  
新しい人には、今から増やすハウスを手伝ってもらえたらどうかと思う。初めからハウスを建てたり、売り先を確保することは資金的にも大変である。

座長 やり方を含めての情報提供をしながら、新規就農者を見つけると良いのではないかな。

副座長 黒大豆やいちごなど、加工したらそれが儲けとなるが、加工施設はお金がかかってしまうのが難点である。

参加者 農協では、若い会員を集めてくれたら、加工場も考えてもらえるかもしれない。

参加者 給食センターを午後から使うことはできないのか。

座長 休みの日など空いている時間に使えたら、施設の有効活用になると思うが難しいか。

事務局 食中毒の問題がある。検便したり、手の消毒をしたりルールで統一しているため難しいと思う。万が一食中毒が起こってしまった時、全小中学生に起こってしまう。

座長 1ヶ所加工場の施設を置くことをビジョンの目標としたい。

参加者 どうやったら耕作面積を広げることができるのか。市役所でも難しいとは思いますが、土地の流動化ができ、意欲がある方に農地が集まるようにするのが大切である。

座長 加工場について、生駒の農業者も場所さえもらえば本気で考えるという強い気持ちを持たなければならない。一度農協と懇談会を持ったりしたら良いのではないかな。

参加者 市が所有している空いている建物を利用して、農業センターという看板をたて、豆の加工をすればよい。

参加者 新しい事業者を見つけにくくするという意欲が必要だと思う。

## (2) 生駒市農業基本構想について

### (3) 人・農地プランについて

座長 推進懇話会と人・農地プラン等の関係を確認したい。

事務局 懇話会の要綱にあるとおり、人・農地プランや農業基本構想について意見を頂く場としたい。農業基本構想について資料を見る時間がないため、一度持ち帰ってもらい、もう1回会議を開かせてもらうのはどうか。

座長 年数回ビジョンの懇話会も行いたいので、その際にできたらと思う。開くとしたらいつ頃になるか。

事務局 夏頃でお願いしたい。人・農地プランについては、この場でご意見いただきたい。

座長 人・農地プランについて、異議などないか。

参加者 問題ない。  
(全員)

## (4) 今後の予定について

事務局 懇話会を、適当な時期に開催するようにします。

座長 最後に言い残したことなどあるか。

参加者 土地を増やそうと思って、当たったところは荒地だったが断られた。新規就農者として成功するために、皆様のお力添えをお願いしたい。

参加者 遊休農地活用事業は、契約したら使ってくださいとなっていて、勉強会の開催や駐車場についての問題などはどうなっているのか。

事務局 基本的には農地のため、駐車場はない。自転車やバイクで行ける場所で利用してもらいたいし、3,000 円の補助制度をもうけていて、地主の了承を得ることができたら真砂土を入れる制度もある。今のところ申請はないが、利用を始める時には制度の説明もきちんとしている。基本的には、地主の方を中心に考えており、農地を出しやすいようにしたいと考えている。